

令和4年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（ 西院 幼稚園）

教育目標

その子らしさを大切に たくましく生きる力の基礎を培う

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し その子らしさを大切にして、一人一人の違いを良さとして捉え、子どもの個性を大切にしてかかわってきた。子どもを一律に捉えるのではなく、子どもの良さをしっかりと認め、友達に知らせ、子ども自身が満足感を味わってきたのではないかと思う。次年度も引き続き、子どもの内面理解を図り、一人一人の良さを認め、たくましく生きる力を培っていきたいと思う。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 保護者の方の評価はまず良好である。このことがとても嬉しい。 幼稚園・小学校共に公立ということと地理的条件が良いことで、一層強い連携ができていることが大変嬉しいことで、この後も関係が深まる事を願う。 西院幼稚園の子どもはとても素直で、保護者の方も熱心な方が多い。未就園児や園児が西院幼稚園の良さを理解し、入園につながるようになっていくために、また、西院幼稚園の発展のためにいつでも力になっていく。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和4年10月27日	学校運営協議会
最終評価	令和5年3月14日	学校運営協議会

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・子どもの行動や姿のみに捉われず、子どもの思いを丁寧に見取り、内面を理解してかかわり、教師との信頼関係を大切にして保育を進める。
- ・多方面から子どもの姿を捉え、記録したり、日々子どもの姿を教職員間で話し合ったり、保育を振り返ったりして保育の充実を図る。また、教育委員会や専門機関の先生から学んだことを活かし保育の質を高める。
- ・教師も一緒に遊び、自ら遊びたくなったり表現したくなったりする環境や自然に触れたりいろいろな体験を通して学べる内容を考える。
- ・子どもが安心して自分の素直な思いが出せたり、居心地が良いと感じられたりするクラスづくりを目指す。
- ・ＩＣＴを使い、子どもが楽しめる保育を工夫する。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・日々の保育や園内研究保育、記録やエピソードなどを通しての研究協議
- ・週案の反省、評価、改善 保育環境の構成及び検証

- ・アンケート項目「幼稚園に楽しんで通っている」「自分から遊びを見つけ、楽しんで遊んでいる」「友達と遊びことが好きである」「自分の思いや考えを言葉で伝えている」「体を動かして遊ぶことが好きである」「絵本やお話が好きである」「動植物を大切にしている」

中間評価

各種指標結果

- ・毎日の子どもの様子や言動から、週案やエピソードを見直し、子どもの姿を読み取る回数を多くもつことができた。また、担任だけでなく教員全員で環境構成の見直しをはかり実践している。
- ・アンケート項目より 回答者（保護者35名 教職員 10名 計45名）

A よくあてはまる B あてはまる AB 両方の%

「幼稚園に楽しんで通っている」(A42/45 B3/45 100%)

「自分から遊びを見つけ、楽しんで遊んでいる」(A37/45 B8/45 100%)

「友達と遊ぶことが好きである」(A39/45 B6/45 100%)

「自分の思いや考えを言葉で伝えている」(A26/45 B17/45 96%)

「体を動かして遊ぶことが好きである」(A39/45 B6/45 100%)

「絵本やお話が好きである」(A30/45 B9/45 87%)

「動植物を大切にしている」(A25/45 B18/45 96%)

自己評価

分析（成果と課題）

週案及び日々の記録やエピソードから保育を振り返ったり、教育委員会の先生に来ていただき研究保育をして、教師のかかわりや環境構成について学んだりしてきた。これからも、子どもの姿を丁寧に読み取り、日々、子どもの内面理解に努め子どもの発達や育ちを考えより子どもが楽しめる環境を整えていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

幼稚園に楽しんで通っている、自分から遊びを見つけ楽しんで遊んでいる、友達と遊ぶことが好きである、体を動かして遊ぶことが好きであるは、ほぼ100パーセント、自分の思いや考えを言葉で伝えている、絵本やお話が好きである、動植物を大切にしているなどの項目の評価がやや良好である。言葉でのコミュニケーションを大切にし、教師がモデルとなるよう努め、また絵本が大好きもっと読みたいと思える気持ちがもてるよう援助していきたい。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

前期に準ずる。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・アンケートの結果はとてもいい。保育の内容を聞いたり園庭周りを歩いたりして子どもの様子を見ていると活気がありパワーを感じる。また運動会では、ありのままの姿を見せると同時にちよつとした頑張る姿やいきいきとキラキラ輝いた姿を見せてもらった、竹馬に乗りながら玉をフープに入れる技術はすばらしかった。園は子どもたちの可能性を引き出してくれている。
- ・道で子どもたちと出会った時は、挨拶はしている。おはよう・こんにちはだけが挨拶ではない。子どもたちは思っていることを話し、コミュニケーションを自分からとってくれている。
- ・幼稚園の先生は一人一人の子どもをよく見てどんな会話でも適切な場面で適切に声をかけている。文部科学省が言っている「個別最適な学び」を実践されておられる。
- ・いつも保護者の要望を真摯に受け止めその都度改善してくださっている。コロナ禍で減っていた行事も戻りつつあり、その時の最善を尽くしてくださっている。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none">日々の保育や園内研究保育、記録やエピソードなどを通しての研究協議や週案の反省、評価、改善保育環境の構成及び検証を行ってきた。子どもの様子をきちんと捉え、常に子どもの姿を教職員で話し合い、子どもの内面理解に努めてきた。アンケート項目より 回答者 (保護者38名 教職員 12名 計50名) <p>A よくあてはまる B あてはまる AB 両方の%</p> <p>「幼稚園に楽しんで通っている」 (A42/50 B8/50 100%)</p> <p>「自分から遊びを見つけ、楽しんで遊んでいる」 (A34/50 B14/50 96%)</p> <p>「友達と遊ぶことが好きである」 (A38/50 B12/50 100%)</p> <p>「自分の思いや考えを言葉で伝えている」 (A19/50 B26/50 96%)</p> <p>「体を動かして遊ぶことが好きである」 (A34/50 B14/50 96%)</p> <p>「絵本やお話が好きである」 (A24/50 B23/50 94%)</p> <p>「動植物を大切にしている」 (A27/50 B18/50 90 %)</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none">前期評価と比べるとほとんどの項目で同じような評価をいただいているが、全体的に A 評価は低下していた。この状況をしっかりと受け止め、環境や保育の改善に努め、楽しんで遊び学べる幼稚園つくりを考えていきたい。今年度は、昨年以上に ICT を身近なものとして捉え ICT の活用を保育に取りってきた。ICT を取り入れた保育を行うことで、クラス全体でイメージを共有することができ遊びが深まったり、今まで図鑑や本でしか得なかつた情報を動画等で見ることができるようになったりした。次年度はさらに ICT を利用した保育を考えていきたい。年少児年長児との交流がコロナ禍でほとんど持てなかつたので、次年度は異年齢の交流をたくさんもち、いろいろな人とかかわっていきたいと思う。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none">ICT を利用すると共に、人とのかかわりも大切にして保育を進めていきたい。身近な動植物に触れ合い親しめるように、環境を考え、保育に取りれていく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">コロナ禍であるにもかかわらず、それを感じさせない充実した内容や演出で園児にたくさんの経験をさせようと精一歩工夫されていた。保護者も園児も満足していた。

(2) 幼小連携・接続について

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none">幼小の交流や教員同士の研修の内容を保護者や地域の方に伝え、安心して小学校へ就学できるようにする。幼小互いの授業や保育を参観し研究協議をしたり、教員同士の研修を行ったりして、幼小接続に向けて保育の充実を図る。
--	--

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・年間交流保育の作成や研修会への参加
- ・小学校の授業参観の参加後のアンケート
- ・アンケート項目「幼稚園・小学校の連携ができている」

中間評価

各種指標結果

- ・小学生との交流はコロナ禍でもてななかったが、教職員同士のかかわりを通して話し合うことはでき 幼稚園理解や子ども理解を図っている。
- ・アンケート項目「幼稚園・小学校の連携ができている」 ((A26/50 B22/50 95%)

自己評価

分析 (成果と課題)

コロナ禍により、園児と小学生との直接的なかかわりや小学校に出かけるなどの目に見えたかかわりができていないので、保護者の方からはやっているかどうかわからないところもあるのではないかと思う。しかし、今年度は、昨年度より少しずつかかわりは増えつつある。例えば、園児と児童とのかかわりはもてないが、児童と園の教員とかかわりをもったり、園の遊戯室を小学生が使用したり、西院第二グラウンドを使用させていただいたりしている。その中で、園の子どもたちは身近に小学生を感じているように思われる。また、運動会には校長先生教頭先生が参観に来てくださった。

9月には園の教員が小学校の参観に行き学校の様子を見せていただいたり、後期には園の参観に小学校の教員に来ていただいたりして研修の場を設けていきたいと思う。

分析を踏まえた取組の改善

幼稚園・小学校の連携について、94%と概ね良好だが、Aのみだと45人中29人という評価になっている。連携についてもっと具体的に内容を知らせると共に、コロナ禍であるが、出来る範囲で連携や交流を行っていきたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

前期に準ずる。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・連携についてはすでにされているが、保護者には伝わっていないのではないか。小学校の先生と園の先生が交流したことや小学校と園児が交流したことなどを写真付きで掲示したり園だけよりか何かでお知らせをしたりしてはどうか。
- ・接続について昨年小学校の校長先生にお話していただいたことがよかったです。幼稚園の生活や学びがどのように小学校の学びに活かされているか伝わるとよい。コロナ禍で難しいかもしれないが時々小学校に出向き、園児と小学校との交流があるとよい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・コロナ禍のため園児と児童の交流や互いの参観や教職員同士のかかわりを通して話し合うことは今年もできなかった。しかし、今年度は、年長児が小学校のふれあいサロンに行き給食をいただくことができた。また、栄養教諭や校長先生のお話を聞くことができ、年長児は、小学校への不安を少し取り除くことができた。
- ・小学校第二グラウンドを使用したり、小学生の体育の授業を見たりすることができ、小学校を身近に感じることができた。

<p>・アンケート項目「幼稚園・小学校の連携ができている」 ((A26/50 B22/50 96%)</p>	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、園児児童との直接的な交流はできなかつたが、小学校に行っての給食体験や小学校の校長先生のお話を聞かせていただくことができた。1月には小学校の先生が保育を参観してくださったり、幼稚園の作品展の動画を撮影されたりした。幼稚園から小学校への参観はできたが、小学校からは難しかつたので、次年度はしっかりと計画を立てて、交流や連携を行つていきたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食体験については、年長児の保護者には理解していただいているが、他の学年の保護者については理解度が低かつた。今後は、年長児保護者だけでなくたくさんの方に知つてもられるよう取り組んでいきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で縮小していたので仕方はないが、園児が小学校へ行く機会を増やす（復活させる）と、保護者にも連携しているということが伝わりやすいのではないか。給食体験やつくつてあそぼう（小学生が小学校に招いて自分のつくったおもちゃで遊んでくれた）中学校の体育祭の参加など行ってほしい。 ・園児が小学校見学に行き、小学生と触れ合う機会が増えれば西院幼稚園の周知度も上がるのではないかと思う。 ・幼小についての連携やかかわりは大切なことなので、次年度はしっかりと行っていく必要がある。
<p>(3) 預かり保育に関して</p>	
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任、預かり保育担当者、保健職員の連携を密にして、子どもの心身の負担に配慮しながら保育を考えるようにする。健康管理、親子関係、人間関係などを共通理解し、同じ方針で取り組む。 ・家庭との緊密な連携を図り、情報交換しながら、家庭の負担も少なくし、子どもを共に育てるという思いで取り組む。 ・早朝預かり保育や18時まで預かり保育を行い、働く保護者支援を十分に行う。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の記録内容 参加人数 ・アンケート項目「子どもは預かり保育に喜んで参加している」「預かり保育の様子がよくかわり安心できる」 	

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かりを参加している子どもの様子や言動から、子どもの姿を探る。 預かり保育参加者も少しずつ増えてきている。 <p>アンケート項目</p> <p>「子どもは預かり保育に喜んで参加している」 ((A35/45 B8/45 96% 回答なし 1人)</p> <p>「預かり保育の様子がよくわかり安心できる」 ((A34/45 B9/45 96% 回答なし 1人)</p>
--

自己評価	分析（成果と課題）
	一人一人が安心して参加できるように担任と預かり保育担当者が連携を取りながら、子どもの心や体調を考え参加できるように努めている。今年度は早くから年少児の参加も多く、預かり保育を楽しみにしている子どもも多くいる。また、コロナ感染も少し落ち着き始め、いろいろな経験を大にしたいと思い外部講師の方に園に来ていただきサッカー教室や絵本の読み聞かせ、英語で遊ぼう、つくって遊ぼうなどイベントを行っている。イベントのある時は参加者も増える。
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	預かり保育に楽しんで参加する子どもが増えてきた。しかし、年少児では早くお母さんとのかかわりをもちたくなったり疲れたりすると、預かり保育を嫌がる子どももする。子どもの体調を考え保護者との相談しながら、安心して預かり保育に参加させられるようにしていきたい。また緊急時には気兼ねなく預けられるようにしていきたい。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	前期に準ずる。

最終評価

自己評価	（中間評価時に設定した）各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・預かりを参加している子どもの様子や言動から、子どもの姿を探る。 ・預かり保育参加者も少しずつ増えてきている。
	アンケート項目 「子どもは預かり保育に喜んで参加している」(A32/50 B11/50 86%) 「預かり保育の様子がよくかわり安心できる」(A29/50 B16/50 90%)
学校関係者評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育では、いろいろな体験ができたりいろいろな方とのふれあいを楽しんだりできるため「サッカー教室」「絵本の読み聞かせ」「英語で遊ぼう」「つくって遊ぼう」などのイベントの日は、参加人数がかなり増加し、内容によってはほぼ全員が利用される日もあった。今後も、いろいろな体験ができるようにイベントを考えていきたい。 ・コロナウィルス感染防止のため、学年別に預かり保育を行ったり、換気や消毒等の感染対策を十分に行ったり、預かり保育を実施してきた。そのため、異年齢の交流は少なかった。次年度は、異年齢のかかわりを深めた預かり保育を行っていきたい。 ・担当者と保護者や子どもとの信頼関係を大切にして、保護者が安心して預けられるようにしていく。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢のかかわりを深めた預かり保育を目指す。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は地域の方々のお力で「絵本の読み聞かせ」や「英語」「つくって遊ぼう」「サッカー」ととても充実した内容で行われ、子どもたちも保護者も満足していた。これからも地域の方や元保護者さんの力を借りていろいろな体験ができるといいのではないか。また、あえて、外部から

評価	<p>の講師を呼ばなくても預かり担当の先生が編み物を教えてくださったり人形をつくったり充実した内容で保育をしてくださっているので、それを今日は「編み物の日」「人形つくりの日」などと予定に入れるのはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝預かり保育ができ働く方へのサポートも充実してきた。
----	---

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組

- ・子どもの安全な遊びの場を提供し、保護者が相談しやすい雰囲気つくりに努め、子育てを楽しみ、子どもの成長を喜び合える保護者同士の場となるようにする。(教職員からの挨拶や声かけ)
- ・幼稚園の内容を知っていただくために、ホームページや手紙などで発信する。
- ・保護者の相談に丁寧に応じる。
- ・2歳児親子教室を開設する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・子育て支援教育相談の参加人数、相談件数
- ・園児の増加人数
- ・教職員の意識調査アンケート「未就園児の親子の顔と名前が一致している」「未就園児の親子に必ず挨拶をしている」

中間評価

各種指標結果

今年度より2歳児ぶちいちご組を増設した。2歳児の子どもにとって週2回通えるようになり、友達とのかかわりも出てきたようで参加される方が定着してきた。また、0～3歳児ひよこ組の参加者も増えてきている。

いつも明るい挨拶を教職員は心がけている。また、何度も通っている未就園児の親子の方は、ほぼ名前と顔は一致している。

自己評価

分析 (成果と課題)

教職員は3歳児いちご組クラスの親子については全員把握しており、一人一人の子どもの姿等について話し合い共通理解をしている。ぶちいちご組とひよこ組については、毎週参加してくださる方についてはだいたい把握している。新規の参加者は毎週1～3名来られるが、継続して来られる方は少ない。継続して来ていただけるように取り組んでいきたい。

また、他の就学前施設が決まると来られなくなる。気兼ねなく来られる園を目指し、親子共継続していける教育相談にしていくことが大きな課題である。

開放しているのは保育室と園庭なので、これから寒い時期になると、保育室が密になるので、懸念されるので、十分な場所を確保し、安心して遊べる環境を用意していきたい。

分析を踏まえた取組の改善

未就園児クラスの保育の充実を図り、感染防止対策を十分に行い、安心して親子共に参加できるようにしていく。西院幼稚園の未就園児クラスを多くの方に知っていただき利用者の増加につなげていきたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

前期に準ずる。

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児クラスでもいろいろな取り組みを考えておられる。 ・とてもたくさんの未就園児親子が園に集まって来られている。 ・入園につながるような取り組みも考えてほしい。

最終評価

自己 評 価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児親子のひよこ組の参加は日々増加した。また、参加される方も定着してきた。 <p>今年度は2歳児親子クラスぶちいちご組を行い、内容を充実させてきた。ぶちいちご組からほとんどの子どもが3歳児未就園児クラスいちご組への入級を予定している。</p>

学校 関 係 者 評 価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児クラスへの参加者は増加した。行事の時には、親子で楽しめる内容を考えみんなで参加したり、園での作品をもって帰っていただくようにしたり工夫をしてきた。 <p>次年度も保育内容を考えると共に、子育ての相談が気軽にできる環境をつくりていきたい。</p>

学校 関 係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も保育の充実や継続した参加を図り、地域の子育て支援としての役割を果たしていく。 ・未就園児が入園に繋がるように取り組んでいきたい。

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・ひよこ組ぶちいちご組にはとても多くの親子が来てくださっていた。教職員みんなが温かく迎え入れている努力の成果がでている。そこからいちご組入級につなげたい。入級につなげるためにはどんなことが必要なのか保護者さんの声を聞いてみたい。預かり保育が可能になったことで増えることを期待したい。 ・未就園児の預かりの可能は、園を選ぶ側にとっても大きなポイントになると思う。

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

具体的な取組	(取組結果を検証する) 各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方とあいさつをしたり、園の行事にできる範囲で参加してもらいかかわったりしているか。 ・学校運営協議会を中心とした地域の方との交流や環境を活かした保育ができたか。 ・学校運営協議会企画推進委員会による園行事の参画結果。

中間評価

各種指標結果	今年度より地域の方との合同の公園清掃を月1回行うことができるようになってきた。

親子で参加するので地域の方とも顔見知りになり、自分たちの身近な公園を大切にしようという意識をもつことができた。
学校運営協議会の方にお世話になり、絵本室の掲示物を季節ごとに変えていただいたり、絵本の修理をしていただいたりしている。

自己評価	分析（成果と課題）
	地域の方に園に入ってきた機会がかなり増えてきた。公園清掃を共に行ったり、子どもたちのために修理や掲示をしていただくことで、地域の方に守られていることや大切にしているという思いが実感できているように思う。
	分析を踏まえた取組の改善
	今後も地域の方を共に、いろいろな活動を行っていきたい。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	前期に準ずる。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> 西院は幼稚園・小学校・中学校のコミュニティができている。地域はとても温かく、その中で子どもたちは大きくなっている。 公園に子どもの気持ちを表した絵と字を掲示することで、地域みんなも公園を大切に使おうと思う気持ちになるのではないかと思う。 いろいろな場面で地域の方に支えられている。この幼稚園に通って親が地域のつながりの良さを支え合ってもらっていることが学べた。それが子どもたちに伝わりよい情操教育になっている。

最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> 毎月地域の方と一緒に公園清掃はすることができた。 地域の回覧板は、今回も評判がよく、園を懐かしがっていただいたり、園のことを地域の方に知つていただいたりすることができた。また、ギャラリーボードの掲示している園児の作品も評判はよく地域の皆様はよく観ておられた。 民生委員児童委員の方によるパンダクラブを年に3回幼稚園で開くことができた。
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> 毎月公園清掃を行うことやパンダクラブの開催など、地域の民生委員児童委員の方と触れ合うことはできた。 地域の回覧板やギャラリーボードの子どもの作品の掲示は、今回も評判がよく、園を懐かしがっていただいたり、園のことを地域の方に知つていただいたりすることができた。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の方の参観はほとんどできなかつたので、次年度は参観に来ていただく機会を設け、より良くなるように改善策をいただき、保育に活かすようにする。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> 西院幼稚園の雰囲気はなかなか言葉や分では伝わらないので、園児が何か相談している場面や園での遊びや日常を説明会の時などに動画を観ればいいのではないかと思う。

(6) 教職員の働き方改革について

重点目標

保護者から信頼され、明るく元気に楽しい職場づくりを目指す。

具体的な取組

- ・教職員が進んで挨拶したり、自分の業務をきちんと行ったりする。
- ・仕事の効率化を図り、勤務時間内で仕事を終えるようにする。
- ・校務支援員の任用や、仕事を分担したり、声を掛け合い協力して仕事をしたりする。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・教職員の勤務状況や年休取得はどうか。
- ・保護者の方が声をかけやすく、安心して子どもを預けてくれているか。

中間評価

各種指標結果

- ・年次休暇の取得の増加、仕事内容の見直しを図り、時間外勤務を少なくしてきた。
- ・教職員全員が子どもを大切に考え、自分から声をかけ、親身になって相談にのっているか。

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・校務支援員の配属により、一人当たりの業務の軽減につながっている。
- ・保護者の方に協力いただき、年休取得促進日を設けることができ、年次休暇の取得につながった。しかし、行事前などは遅くまでかかってしまうことがあるので、計画的に能率よく業務が行えるようにしていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

勤務時間内に業務終了できるように、時間配分を考えて業務に取り組む。また、本日中に絶対に行わないといけないこと以外は、時間外には行わないようにする。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

前期に準ずる。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・昨今は保護者がより多くのサービスを求め、保護者からの過剰な要望が教職員の本来の教育に支障をきたしているのではないかと危惧している。何でもかんでも教職員に求めるのではなく、保護者同士のつながり（PTA）で自分たちで変えていくことはないかと考えたい。もちろん教職員と保護者の意見交換や相互協力は積極に行っていきたい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・教職員全員が子どもを大切に考え、自分から声をかけ、親身になって相談できる雰囲気をもち、信頼関係を築く。
- ・年末の年休習得推奨日は、保護者の方の協力をいただき、園を閉鎖することができ、教職員全員が年休を取得することができた。

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員は、子どもを第一に考え、接することはできた。 ・教職員みんなで助け合いながら業務を行ってきた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>安心安全な幼稚園を目指す。</p> <p>業務内容の見直しを図り、教職員は就労時間をきちんと守り、残業がないようにする</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革といっているが、まだまだ現場では難しいのではないか。現場の教職員の働き方改革も是非にしっかりと行っていただきたい。 ・園れんらくアプリの導入で、欠席連絡の電話や手紙の配布アンケートなどの業務が1つにまとまり作業が少なくなった。保護者の方もアプリで連絡できることはすごく便利で、紙の紛失や出し忘れがなくなった。